

令和3年度第6回富山市通学区域審議会 議事概要

開催日：令和4年1月17日（月）

開催時間：13時～15時

開催場所：Toyama Sakuraビル5階大会議室

出席委員：中村会長、品川副会長、石動委員、江尻委員、菊川委員、
國香委員、齊藤委員、城岡委員、高木委員、針田委員、
藤田委員、堀田委員、松井委員、吉田委員
計14名

※第6回審議会における審議内容の最終的なとりまとめは、第7回審議会にて行います。

《開会》

【司会】 令和3年度第6回富山市通学区域審議会を開催する。
委員14名が出席しているため、富山市通学区域審議会条例第6条第2項の規定により、審議会は成立している。
令和3年12月末をもって、公益社団法人富山青年会議所直前理事長であった渡辺光委員が富山青年会議所の役員改選に伴い退任し、後任として、公益社団法人富山青年会議所理事長の針田慶委員が就任した。

《議事（1）第4回審議会の振り返り》

【中村会長】 前回審議会において、齊藤委員から、池多小学校や古沢小学校が一次統合で老田小学校に統合するのではなく、まずは複式学級の解消のために呉羽小学校に統合したほうがよいという地元からの意見の紹介があり、高木委員から、徒歩通学できる距離は3kmとするよりは2kmとするほうが適切ではないかという意見があった。また事務局より、委員からの質問への回答に対する補足説明もあった。

これらを踏まえ、改めて第4回の審議内容についてとりまとめを行った。事務局より説明を求める。

【学校再編推進課長】 (第4回審議内容とりまとめについて説明)

【中村会長】 とりまとめについて質疑等があるか。

(質疑等なし)

《議事(2) 第5回審議会の振り返り》

【中村会長】 第5回審議会の審議(大沢野・細入、大山)においては、細入地域の議論に多くの時間を割いた一方で、船嶺小学校のある大沢野地域についてあまり取り上げることができなかったため、改めて、審議会としての方向性を確認することとしてよいか。

(異議なし)

【中村会長】 事務局から説明を求める。

【学校再編推進課長】 (再編原案(大沢野)、第5回審議内容とりまとめについて説明)

【中村会長】 再編原案(大沢野)について意見等があるか。

【國香委員】 再編原案は教育的意義からも妥当性があると思うが、船嶺地区は猿や熊などが出没することがあるため、スクールバスを運行するとしても、安全に乗降車できるバス停を用意することや、猿や熊が出た時の対応の仕方等を十分に検討する必要がある。

【中村会長】 地域により通学路の安全性、対処すべき事柄は異なるが、児童生徒の安全確保は最優先である。

【江尻委員】 船嶺地区は南北に細長く、大久保小学校に近い児童もいれば大沢野小学校に近い児童もいる。また、有害鳥獣の出没により、バス停から自宅までの通学路の安全面が不安なので、船嶺地区の自治会とも十分な協議が必要である。

【中村会長】 再編原案が本審議会で考える教育の観点から妥当であるとするならば、大沢野小学校あるいは大久保小学校のいずれかと再編となり、今後地元や保護者の方々の御意見等を踏まえて

考えていく必要があると思う。

【藤田委員】 船峠小学校を視察した際、放課後に児童が集まる場所があり、地域の中で連携し、育んでいるものが多いという説明を受けた。今築き上げているものを大切にしながら、再編について地域の理解を得るためには、地域を労いながら丁寧な説明を重ねていくことが必要である。

【中村会長】 第5回審議内容とりまとめについて質疑等があるか。

【江尻委員】 細入地域について、前回審議会後に、学校再編に関するニュースを見たと思われる方から、中学校がなくなることによる人口流出を心配する問合せがあった。学校再編は地域住民にとって関心事であり、デリケートな話題であるため、報道機関にも配慮をお願いしたい。

【中村会長】 児童生徒にしっかりとした教育サービスが提供できない場合、それは取りも直さず地域にも深刻な影響を与えられ、当審議会としては、地域の方々や市議会議員の方々からの御意見等について情報共有をしながら、教育の観点から論点を整理し、妥当性を考えていくというところである。

大沢野地域の再編原案については、妥当であるが、通学路の安全確保や学校独自の特色の継承等が大切であるという意見があったととりまとめてよいか。

(異議なし)

《議事（3）事務局説明（八尾・山田）》

【中村会長】 再編原案（八尾・山田）について事務局から説明を求める。

【学校再編推進課長】 （再編原案（八尾・山田）について説明）

《議事（4）意見交換（八尾・山田）》

【江尻委員】 スクールバスの所要時間について、資料では乗降時間を含めず約40分とあるのに対し、パブリックコメントでは1時間半かかるという意見があるが、これはパブリックコメントの

意見が間違っているということか。

【学校再編推進課長】 実際の走行時間を報告したものであり、1時間半ということの根拠は特に確認していない。

【江尻委員】 これだけの違いがなぜ出るのはわからないが、山田地域は勾配があり、走行速度によっては危険であると思う。所要時間の検証は雪のない時期に行われているため参考にはならない。降雪時に児童が長靴を履いて登校するところから検証されたい。

山田地域に関するパブリックコメントの中には、1時間半の通学時間は子どもたちにとって精神的、肉体的に負担がある、受験を迎える中学3年生の勉強時間の確保への心配がある、車酔いやトイレ等に不安があるといった意見が見られた（資料9、109ページ、117番）。スクールバスの所要時間によってはトイレ休憩等がないと、万が一失態があった場合の子どもの心理状態が心配である。

資料9の108ページの116番には、山田地域において小・中学校の義務教育学校としての存続や、特色ある教育環境の維持を求める意見がある。また、広大で地域性の異なる富山市における学校統合を一律に進めることへの疑問があること、学校の存続は人口対策において重要であり、中山間地域振興策として山田地域への居住希望者の積極的な受入れ体制の整備を求めていることなども述べられている。だからこそ、細入地域、小見地区、山田地域における署名活動等を通じて地域の方々の民意を取りまとめたところである。

降雪時の細入地域においてスクールバス所要時間検証を行ったということだが、この日の雪は多くない。この翌日は、最も雪が多いと思われる片掛地区で一晩で65cmの積雪があったと聞いている。こういうときにぜひ検証を行ってほしい。バスの運転手はこの日も大きな遅延はなかったと仰ったようだが、それはとんでもないと考えている。

- 【中村会長】 通学時間、バス通学において生じ得る様々な不便な点については、事務局の検証結果も踏まえて、論点としてしっかりと出していくことが大事である。
- 【松井委員】 パブリックコメントの中には子どもが書いたと思われる意見があった（資料9、91ページ、24番）。子どもの意見も聞いてはどうか。
- 【中村会長】 今回審議している地域とは少し違うが、中学校進学先が異なるため離れ離れになることへの教育的な配慮は必要であり、再編原案の評価につながっている部分もある。また、各学校で行われている特色ある教育をどのように引き継いでいくのかという構想を示すことも必要である。
- 【藤田委員】 山田地域の地域おこし等に関わっており、山田地域のことを何かと知っているという前提で発言する。山田地域は、学校がなくなるということと地域振興、地域の将来について敏感になっているのではないかと思う。数字を見ると決断が必要かとも思うが、保護者、地域の方々は子どもたちを地域の中で育てていく実践の途上にあり、統合によって今目指しているものがどうなるのかという不安がパブリックコメント等に表れていると思うので、将来こうなるということを具体的に示していかないと、地域の理解を得るのは難しいのではないか。
- 【中村会長】 当審議会としては、基本方針に沿って再編原案の妥当性を考えるということで、小・中学校の教育という観点から再編原案を評価することが、将来にわたることも含めた実のある説明および理解を得るための材料になるのではないか。地域での説明における丁寧さというのは、当審議会で議論した内容を伝えるということかと思う。
- 【高木委員】 山田小・中学校と婦中地域城山地区の小・中学校との統合の案について、検討の余地はないのか。
- 【学校再編推進課長】 最も近い音川小学校が再編対象校となっていることから、山

田小学校と音川小学校の再編は現在検討していないが、地域や保護者の方から検討の課題に上がるという声があればそれを否定するものではなく、検討してまいりたいと考えている。

【齊藤委員】

各学校の特色ある教育活動については統合後もぜひ継続してほしいが、一時的な活動の方が多く、日々の授業でよりよい教育環境を提供していくことが非常に重要であると思う。小学校の再編は慎重に進めていく必要があると思うが、中学校はできるだけ早く、色々な経験のできるよりよい教育環境を提供するのがよいと思う。

【中村会長】

地域の理解を得ながら、小学校と中学校での再編の進め方やタイミングについて考えていかねばならないと思う。

【高木委員】

再編原案はいずれも適正規模という意味では妥当だと思う。文科省によると、中学生は他者との関係の中で他との違いを認めて自分の特性に気づき、様々な葛藤の中で自らの生き方の模索を始める時期である。一定の規模の集団の中においては、授業の中で多面的、多角的な見方や考え方に会ったり、体育大会、合唱コンクール、部活動などで自分の役割をこなして様々な経験をしたり、目標となる子どもたちに出会ったりする可能性は高くなると思うので、中学生の青年前期という発達段階を踏まえると、小学校と中学校を分けて考えるのがよいと思う。

【石動委員】

子どもたちが受ける教育経験という視点に立つと、適正規模になることは望ましいが、山田地域は地域を横断する再編原案であり、地域における教育機能とその実績という点においては特例かとも思う。目先のことを考えると再編への拒否反応があるので、長期的な視点で考えるならば、近くの学校とICTを通じて授業をするといった、つながって学び合うことの意義を説明することが大切ではないか。

【中村会長】

既に交流授業等を行っている事例もあり、再編を進める過程において、そういった試みは不可欠かと思う。長期的な視点

をもつ一方で、残された時間はそれほど長くないと私は考えている。将来の道筋を示すために、教育の観点から何をどのように評価しなければいけないか、考える必要があると思う。

【國香委員】 中学校を先に統合するのは子どもの発達段階から考えて必要なことかと思う。小学校については、低学年の通学時の負担やふるさと教育という視点から考えると、近くに学校があることは望ましいが、一方で、技術革新により急速に変化する社会、予測困難な時代においては、中学校だけではなく、小学校であっても、様々な価値観の先生や友達と協働的に学んだり活動したりすることは不可欠である。神通碧小学校や山田小学校の場合も、子どもたちの教育、資質・能力を育てるという観点においては再編案は妥当であり、少子化が進むようであればいずれ、どのような教育環境を提供すべきか考えていかなければならなくなると思う。

【中村会長】 八尾・山田地域についての意見が出ているところだが、八尾地域の3案について、一次統合、最終統合とあるが、しっかりとした説明があつて然るべきであるといったこれまでの審議における意見も踏まえると、一次統合を排除するものではなく、小学校と中学校を分離して考えていくという点において3案を選択肢として残しておくことにも通ずるかと思う。他に意見等あるか。

(意見等なし)

【中村会長】 八尾・山田地域については、発達段階等を踏まえて小学校と中学校の再編の時期について検討する必要がある、特色ある教育環境の継承について構想を示す必要がある、地域における丁寧な説明が必要であるといった意見があつた。

《議事(3)事務局説明(婦中)》

【中村会長】 再編原案(婦中)について事務局から説明を求める。

【学校再編推進課長】 (再編原案(婦中)について説明)

《議事（４）意見交換（婦中）》

【城岡委員】 朝日小学校は平成２９年に小規模特認校となっており、他地域から児童を受け入れていることもあって児童数が増加しており、全学年単学級は避けられないものの複式学級の解消も見込まれる。不登校児童等の受け入れなど、一定のニーズがあるのではないか。また、朝日地区から速星小学校への通学に想定される通学路のうち、井田川を渡る橋には歩道がなく、交通量が多いため、小学生が歩くには危険である。これらのことについて、慎重に検討されたい。

【中村会長】 小規模特認校の役割は非常に重要であり、再編の可能な姿を示した上で、小規模特認校をどのようにしていくのかを考えることが重要かと思う。通学路の安全確保がどのように担保できるのか慎重に考えていく必要がある。

【國香委員】 小規模特認校は、少人数で地域の方や地域の文化に触れ合っ
て活動ができるというものであり、不登校児童の受け入れは本来の趣旨にはなかったと認識している。今後、学校に行きづらい、小規模校であれば通うことができるなど、様々なニーズが高まっていく可能性はある。そういった子どもを受け入れる拠点校の必要性については、再編と併せて検討していくとよいのではないか。

【中村会長】 今後再編を進める上では、まず再編の可能な姿を示した上で、小規模特認校をどのように位置づけ、教育に対するニーズに
応えていくのかについて、改めて考える必要があると思う。

【齊藤委員】 たまたま不登校児童が学校の特色に魅力を感じて小規模特認校への通学を希望するのは大いに結構だが、不登校児童の受け入れは小規模特認校の本来の趣旨とは異なるので、慎重に考える必要がある。

城岡委員の指摘した道は私も危険だと思う。

また、朝日小学校と鶴坂小学校の統合案が、長期的に大規模校になることが見込まれるため除外されているが、朝日地区

には鵜坂小学校に近いところもあるので、選択肢として検討してもよいのではないか。

- 【中村会長】 鵜坂小学校との統合案を除外したのは基本方針に沿って再編原案を作成したためだと思うが、再編原案以外の選択肢を排除するものではない。意見として反映できればと思う。
- 小規模特認校については事実として踏まえた上で、当審議会の議論とは切り離して考え、今後の在り方については富山市全体で考えていくべきことかと思う。
- 婦中地域については、通学路の安全について心配されるという意見、小規模特認校の取り扱いについて今後検討するとよいという意見、適正規模の観点から除外していた再編原案についても広く考えていくべきではないかという意見があった。他に意見等があるか。

(意見等なし)

- 【中村会長】 八尾・山田、婦中の審議を終了する。第7回の審議時にこれまでの審議と併せて振り返りを行う。

《議事（5）富山市立小・中学校の再編原案に係る答申について》

- 【中村会長】 本日、第6回審議会で一通り再編原案の審議は終了した。次回、第7回審議会（1月31日）において、全体の振り返りと答申案についての意見交換を行う。現在、事務局において答申案のたたき台を作成中だと聞いており、今回の審議についても反映したものを示されたい。
- 審議会として意見をまとめて答申という結論を出すにあたり、資料19「富山市立小・中学校の再編原案に係る答申について」で論点を整理した。
- 第2回審議会において示した議論の進め方に沿って議論したところであり、適正規模の観点、教室の過不足の観点、通学距離や時間の観点が基本方針にのっとった形での答申の骨格となると考えられる。パブリックコメントや市議会議員から

の意見、富山市PTA連絡協議会が実施したアンケート結果についても情報を共有してきたところである。また、保護者や地域の理解を得るという点は繰り返し指摘があった。何より、委員の皆様の知見や経験に基づく意見を答申の中に盛り込んでいくことが大事かと思う。

については、地域生活圏別の再編原案の妥当性について答申することが必要であり、各委員の意見、指摘等を取りまとめ、附帯意見という形で、今後、学校再編を検討するに当たって、教育委員会において留意されたいことを取りまとめてはどうかと考える。また、再編原案については、審議の経過状況により可能であれば絞り込みをしたいと思う。

答申について、このような形で整理して進めることとしてよいか。

(異議なし)

【中村会長】 異議なしと認める。最後に、事務局から連絡事項等があるか。

【学校再編推進課長】 (連絡事項)

【中村会長】 議事を事務局に返す。

《閉会》

【司会】 第6回富山市通学区域審議会を閉会する。

— 了 —